

区分・種別	重要文化財(彫刻)		
名 称	もくぞうぶつつうぜんじざぞう 木造仏通禅師坐像 1躯		
所 在 地	西条市中野		
所 有 者	保国寺	管 理 団 体	
指定年月日	昭和29年11月24日 県 昭和46年6月22日 国		
解 説	仏通禅師坐像は、加茂川の西岸台地上の保国寺にある。寺は天平年間（729～749年）に創建され、その後建治年間（1275～1278年）に仏通禅師の徳を慕い、天台宗から臨済宗に改宗したと伝えられている。室町時代初期には寺運盛んとなり、七堂伽藍も整っていたといわれるが、天正13（1585）年の兵火によって焼失してしまった。 仏通禅師（1229～1312年）は、始め叡山に登って天台宗を学び、後に聖一国師について臨済に歸し、その高弟になった。 像は、頂上から身底まで78.3cm、頂上から裳先まで115.8cm、寄木造、等身大の頂相彫刻である。円頂肥満の安定した堂々たる像容を示し、いわゆる都作^{みやこ}であろう。個性的表現の巧みさといい、そつのない衣文^{えもん}の意匠といい、まことに手慣れたものがあり、鎌倉時代末ごろの頂相彫刻の円熟した技法をうかがうことができる。		

